

3 年生保護者のみなさま

高槻市立城南中学校  
校長 安田 信彦

## 令和元年度「大阪府中学生チャレンジテスト」の結果について

この 6 月 1 9 日に実施された「大阪府中学生チャレンジテスト（中学校第 3 学年対象）」の本校結果の概要について、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 《調査の目的》

- （１）大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にいかします。
- （２）生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。
- （３）大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

#### 《調査の内容》

国語、社会、数学、理科、英語（英語はリスニング問題を含む）

#### 《本校の状況》

##### 国語

#### 《結果及び課題》

大阪府平均点を上回る結果となりました。

評価の観点別に見ると、「話す・聞く能力」のみ、下回りましたが、「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」は上回っていました。特に「読む能力」が大きく上回る結果でした。

前年度課題として挙げていた「記述式」問題の無解答率の高さは、大阪府の平均を下回り、改善がみられました。要因としては、授業の單元ごとに“自分の考え”を伝える、書く活動を多く取り入れたことが考えられます。そういった日常の取組みを通して、着実に力をつけ、意識が変わってきていることがうかがえます。しかし、「伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書く」問題の正答率は低く、“自分の考え”を書くことには課題を感じます。同じく、古典の「現代仮名づかいに直す」問題に関しても、前年度と同様、正答率が低く、まだ定着していないことがうかがえます。

#### 《今後の取り組み》

授業での“自分の考え”を伝える、書く活動は成果も出ているので、これからも継続的にを行います。グループ活動などの伝え合う活動を積極的に取り入れることで、自分の考えを深めたり、広げたりすることをめざします。加えて、古典の課題に関しては、現代仮名遣いなどの「文語のきまり」は改めて指導し直し、知識・理解の定着をはかります。日常ではどうしても古典にふれる機会は限られています。単元の学習のみにならないように、普段から配付物や掲示物などを活用して、古典にふれる機会を増やすことで、古典への興味・関心を高めていきたいと考えています。

##### 社会

#### 《結果及び課題》

大阪府平均と比べ、若干上回る結果となりました。

選択肢がある問題に関しては、府平均より正答率が高いことが多いですが、用語を書いて答える短答式の問題の正答率は、府平均より低くなっていることが多いです。しかし、記述式の問題の無解答率が府平均よりも、およそ 15 ポイント低く、難しい問題でも解いてみようとする意欲的な態度が見て取れます。

地理的分野・歴史的分野問わず、全体的に基本的な知識を問う問題に弱点があるように見受けられます。どちらの分野でも特に意識して、基本的な知識を定着できるよう学習していく必要があります。

#### 《今後の取り組み》

地理的分野・歴史的分野どちらも、毎回の小テストなどで基本的な知識を定着させたいと思います。また、どちらの分野でも、「なぜ」という問いを意識しながら、社会的な思考力が育まれるように、個人や班で考え、知識を活用する授業を行い、短答式・記述式の問題にも対応できるよう取り組んでいきます。

## 数学

《結果及び課題》

大阪府平均と比べ、同等の結果となりました。

分野別にみると「関数」「資料の整理」では大阪府の平均を少し上回る結果となりましたが、「数と式」「図形」では下回る結果でした。数と式、空間図形、三角形の合同の問題、連立方程式と解き方や、方程式の解の意味を理解しているかの問いについて大阪府の平均より正答率が低い結果でした。一方、無解答率は大阪府の平均より低く、あきらめずに取り組もうという気持ちが表れています。

「数学の授業はよくわかる」「公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の質問では、どちらも大阪府の平均を下回る結果となっています。

《今後の取り組み》

授業の中で既習事項の復習を絡めながら授業を進めていきます。とくに、図形の基本の復習は必要だと感じています。また、計算力はどの分野でも必要な力となります。公式や証明などなぜそうなるのかの筋道を考えることは数学を理解する上でとても大切です。これから学習する内容でも、筋道を考えて説明することがたくさんあります。自分で説明できるように、なぜそうなるのかを考える授業を作っていきます。

## 理科

《結果及び課題》

大阪府平均と比べ、同等の結果となりました。

「思考・表現」「観察技能」「知識・理解」すべての領域で、大阪府平均と同等の結果となりました。無解答率も比較的低く、努力して問題に取り組む姿勢が見られました。また、アンケートでは、「理科の授業はわかりやすい。」は大阪府平均とほぼ同等、「理科の授業で自分の考えを表現するとき、相手に伝わるよう工夫して話したり、書いたりしている。」については、大阪府平均を若干上回っていました。分野別にみると、1年生の範囲の多くが大阪府平均を下回り、2年生の範囲の多くの結果が大阪府の平均を上回っていました。

2年生から、実験レポートの提出を必須にしたことや、実験時の予測や考察に取り組む機会を増やしてきました。また、少人数の班での教えあいを日常から取り入れることで、互いに考えを深めた活動の成果が表れていると感じています。

《今後の取り組み》

一人ひとりの生徒の学力向上を意識し、自ら考える力を伸ばす授業に取り組めます。個人でしっかり考える時間をとり、科学的に探究し、ペアや集団で考えを深める学習活動を意識的に組み込みます。単なる知識で終わるだけでなく、実験時や日常で見かける自然現象に対し、学習事項をあてはめ、説明できるような授業を展開していきます。

## 英語

《結果及び課題》

大阪府平均と比べ、すべての項目で上回る結果となりました。

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべての領域で、大阪府平均を上回りました。無解答率も非常に低く、努力して問題に取り組む姿勢が見られました。また、「英語の授業はわかりやすい。」「英語の授業で自分の考えを表現するとき、相手に伝わるよう工夫して話したり、書いたりしている。」はともに、大阪府平均を上回っていました。

英語の授業では、1年生のときから、習ったことを使って行う「表現活動」を大切にしてきました。実際のコミュニケーション力を意識したインタビューやスピーチだけでなく、即興力をつけるために職業や動物、食べ物をペアの人に英語で説明する活動を取り入れてきました。習ったことを使ってアウトプットすることで、英語の基礎・基本が定着していくのでこれからもスキット（寸劇）やスピーチで実力を伸ばしていきたいと思います。

城南中学校では今後「話すこと」にも一層力を注いでいきたいと考えます。教科書をただ読むだけでなく、自分の考えを整理したり、発表したりすることで実社会の中で役立つ実践的な英語力を身に付けていきます。

私たちの普段の生活の中で、英語に触れる機会はそう多くはありません。そのため授業ではコミュニケーションを中心にたくさん英語を使用し、家庭では学んだ内容を整理して書く学習を積み重ねました。宿題は多かったと思いますが、みなさんが授業に真面目に取り組んでくれたこと、家庭学習にコツコツ取り組んでくれたことが、今回の結果につながったのだと感じています。

《今後の取り組み》

引き続き、一人ひとりの生徒の学力向上を意識した授業に取り組めます。英語に対する興味・関心をさらに高めるとともに、ペアワークやグループワークを効果的に活用しながら、自発的な家庭学習に結びつくアドバイスもしていきたいと思います。

《最後に》

学校では、教科授業の充実、落ち着いた学習環境作りにさらに取り組んでいきます。今後ともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。